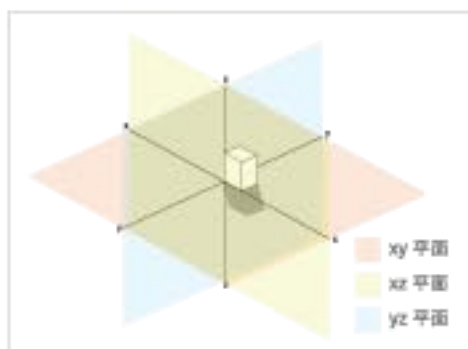


Absolute Arrow - 遷在する座標軸 -

私達が恒常的に目にする風景には、水平/垂直という**基軸**が存在している。建築や植物、そして人は垂直に立ち、海は水平に走り、人間がつくってきた人工物は水平/垂直によるものが多い。それは天と地という**絶対的**な概念によるものに他ならない。これによって秩序ある文明が成立している。私達人間はXZ・YZ平面上において無意識的にその絶対的な**チップ**を埋め込まれている。

一方で、平面的(XY平面)に見てみるとこの基軸となるものは見当たらない。例えば、初めて訪れる場所では地図のみが絶対的なものとしてあり、地図なしではその場の絶対的要素を知る術をもたない。つまり、人々は日常の中に存在するもの(建築・道路・看板など)を言わば**記号**として認識し、**相対的**に自己の生活を成立させている。

本計画は、街区公園という町中に遷在するものを通して、また公園内という見通しの良い場所に設置されるトイレによって、平面的な見えない**絶対座標**である**方位**を可視化し、広島のまちに、そして地域の人々に新たな**チップ**を埋め込むことを目的とする提案である。



このトイレの二等辺三角形の屋根は、**真北を指す矢印**となっている。どのような公園のどの場所に設置されても、この屋根は真北を指す。つまり、この屋根がまちの中に**遷在**する絶対的な**チップ**となる。

地域住民や子供たちはこの屋根により、生活圏の**日常風景**を**幾何学的立体**として捉えることが可能となる。ここで意図しているのは強制ではなく、日常を捉える認識のオプションを付与することである。

市民に愛される公園のトイレのみならず、世界中の都市計画的なマクロな観点からも、この北向き屋根のトイレは大きな意味をもつ。このトイレが**小さなランドマーク**となり、人々にとって日常の新たなイデオロギーを構築する分子となる。

